

# 第2学年 図画工作科学学習指導案

日付 平成30年10月22日(月)

学年組 児童数 第2学年1組 計33名

指導者 望月 真理子

1. 題材名 『 うつして みつけて 』 A表現(1)ア、(2)ア、B鑑賞(1)ア

2. 題材目標 写し取った身の回りのものの模様を基に、表したいことを見付けて、自分なりに模様を生かした作品をつくりだす。

### 3. 題材の評価

観点	ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
題材の評価規準	フロッターージュの技法を通して、身近なものの形や凹凸の面白さに気付くとともに、表し方などを工夫して模様を写し取ったり組み合わせたりしている。	身近なものの形や凹凸の面白さに気付くとともに、模様を味わいながら、表したいことを思いついたり考えたりしている。 自分や友達の作品の造形的な面白さや楽しさなどを感じ取っている。	写し取ったり組み合わせたりして、自分なりの表し方を楽しみながら取り組むとともに、身近なものの形や凹凸を生かした造形的な活動に取り組もうとしている。

### 4. 題材について

#### (1) 題材観

- ・本題材は、フロッターージュという身の回りの模様を写し取る技法を用いて、児童が身近なものの造形的な面白さに気付いたり、形や色を味わったりするA表現(1)の領域の活動である。身の回りにあるものの形や凹凸に紙や色鉛筆を通して触れることで、児童が形のとらえ方を再認識し、発見したり試したりしながら新たな表現を思いついていく。手に伝わる自分の感覚を味わいながら、好きな色を選んだり形を組み合わせたりするなどの工夫をし、自分なりの表し方を考えることで、写し取って作ることへの関心を高めていく活動である。
- ・本題材で取り扱うフロッターージュ(こすり出し)というモダンテクニックは、オートマティックに模様をつくりだす技法であり、版画技法の一つでもある。薄い紙の下に写し取る原本を置き、紙の上からそのものの感触を味わいながら、そっと鉛筆などで模様をこすりだしていくと、原本のコピーを撮っているような不思議なワクワクを感じられる。見慣れた床の木目や落ち葉も、自分が選んだ色でそっと写し取ると、見た目には気付かなかった凹凸とその感触が、紙を通して伝わってくる。技法の習得と共に、身の周りにある造形的な面白さに気づき、生活を楽しむ気持ちが育まれることを目指す。
- ・児童たちは1年生からこれまでに、色鉛筆やクレヨン・クレパスを用いて絵を描くなどの活動をして描画材に親しんでいる。今回の模様を写し取る活動では、親しみのある道具でも、使い方によって新たな表現が作りだせることに気付けるだろう。

## (2) 児童観

児童数33名の学級である。図工の時間に楽しく作品を作ったり、発表したりする児童が多く、積極的に造形的な活動に向かう姿勢がみられる。題材や材料に触れ、自分なりに新たな発想を思いつく児童の姿も多々あるが、一方で新たな発想をしにくい児童もいる。また、「自分は絵が下手だ。」「器用じゃない。」など、活動内容によっては苦手意識をもっている児童もいる。教師が題材や素材を設定する際には、全員がめあてを達成し、達成感を味わえるように、具体的な活動を想定して支援をしていくことが必要である。

また、友達の活動に高い関心をもっている児童がいる一方で、自分の活動に没頭するあまり、表現の工夫や自分なりの見方を広げる機会を逃している様子も度々みられる。本題材では、互いに共有している学習環境の中で身近なものの模様を写し取る活動がある。その活動の中で、児童が写しとった模様を友達に見せたり、友達の活動が児童の目に入ったりのような活動設定をする。そうすることで、児童同士が関わり合う機会を広げ、学び合い、深い学びにつながるよう指導していく。

## 5. 研究主題との関連

### (1) 専科分科会が考える深い学び

研究主題「深い学びを実現する授業の創造～新学習指導要領を踏まえて～」にあたり、低学年分科会では「深い学び」について、

- ① 生活経験や既習事項と新しい知識をつなげて気付いたことを丁寧に表現できる児童
- ② 理由を基に自分の考えをもったり、問題を解決したりしようとする児童
- ③ 事実や周りの状況を比べたり、つなげたりしながら、新しい考えをもつことができる児童と設定している。

専科分科会の「深い学び」には、発見→実感→追究という学びのサイクルを児童自身がつくりだすことが重要であると考え。低学年であれば、自分と題材、教師との関わりが中心となって学びのサイクルが展開されるだろう。今回は更に、友達との関わりから児童が学びを深められるように学習活動を考えた。

本題材で扱うフロッタージュは、薄い紙に鉛筆でそっとこすり出すと、自分では描けないような模様を紙の上に描きだせる技法である。児童がこの技法を使うことで、何度もやり直したり、試したりすることが容易になるとともに、ものの凹凸や触り心地などの実感を得られたり、作品への追求もしやすい活動となる。また、身近な環境にあるものを材料の一つとして考え、その中で自分の表現をつくりだしていくことで、生活の中での造形的な見方、考え方を働かせて活動できる。

児童は、授業者が指定した活動ではなく、自分の気付いた造形的な特徴から、やってみたいことを決め、自ら活動を展開させて学習を深めることができる。自分で写し取りたいものや場所を選び、写し取っていく過程では、自然と周りの友達の活動が目に入り、互いに関わり合いながら活動が深まっていく。場や材料の特徴から発想が広がることもあるだろう。本題材では、友達と関わりあいながら自分とは違った面白さに気付くとともに、学習の流れに沿って自然と学びのサイクルをつくっていくことで、低学年らしく学びが深まり、表していくことができると考える。

### (2) 本時における深い学びの姿

低学年分科会が目指す深い学びの姿を基に、専科分科会では、本時の児童の深い学びの姿を以下のように考えた。

- ① 写し取ってできる身の回りのものの模様を基に、面白さや楽しさを味わい、表し方を考えている姿
- ② フロッタージュの技法を使って、自分なりに表し方を工夫しながら創造的に作りだしている姿
- ③ 自分や友達の活動や作品から、新たに思いついたり、見方や感じ方を広げたりしている姿

### (3) 深い学びに迫るための具体的な手立て

#### ① 題材の工夫

児童の中には、活動が始まる際に、うまくできるか自信がなく不安になってしまうことがある場合もある。フロッタージュは、児童にも馴染みある薄い紙と鉛筆を使って取り組むので、児童たちの不安も少なく取り組めるだろう。またフロッタージュは、試したりやり直したり、繰り返すことが容易な技法である。児童は自分なりに、よりよい作品を目指して追究しながら取り組むこともできる。また、友達の活動を見て、自分の作品の参考にすることも容易にできるため、互いに学び合うよさを児童自身が感じられるだろう。

#### ② 見方・考え方を働かせる活動の工夫

本時では、教室の中のロッカーや床の模様も素材として扱う。その他にも、凹凸のある素材を用意して教室に置いておく。児童は、自席に座って取り組むだけでなく、教室の中で技法が使えるような場所を探したり、友達と一緒に素材を試したりして、自然と児童同士が関わり合うことを想定して場を設定する。友達との関わりの中で、新たな模様の作り方を発見したり、組み合わせや色合いによる感じ方の違いに気付いたりして、活動の中での学びが深まるだろう。

#### ③ 対話の工夫

教師が授業全体を通して、作品のよさを強調して伝えたり、示したりして、児童が互いの活動を感じやすくなるように支援する。また、導入で一斉に作品を見て、その作品のよさや面白さを具体的に伝え合いながら鑑賞する。そして、あらかじめ授業の最後にも鑑賞会をすることを伝えておく。そうすることで、活動の中でも友達と伝え合うことを考えたり、友達から学ぼうとしたりして、対話的に学び合う場面が多くなるだろう。

## 6. 【共通事項】

- ア 自分の感覚や活動を通して、形や色などに気付くこと。
- イ 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。

## 7. 指導計画（全2時間扱い）

	時	・学習活動	■支援
前時	45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロッタージュの技法を学び、取り組む。</li> <li>・身近な場所やもので、技法が効果的に表れるような特徴を知る。</li> </ul>	
本時	45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や家などで写し取った模様を友達と見合う。</li> <li>・写し取った模様に描き加えたり、模様を組み合わせたりして活動することを知る。</li> <li>・描き加えたり、組み合わせたりしたら面白そうな模様を探す。</li> <li>・作品を友達と見合ったり、モニターに映したりして鑑賞会をし、感想を発表したり聞き合ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「やってみたい」「試してみたい」という思いを受け止め寄り添い、必要な支援や声掛けをする。</li> <li>■一人一人の感じ方を受け止め、それぞれの感じ方のよさに共感したり、互いの違いを認め合ったりする。</li> <li>■新しい表し方を思いついたり、工夫を考えていたりするような言葉があれば大きく取り上げる。</li> </ul>

8. 題材計画 (本時 45 分間、2 / 2 時間)

(1) 本時の目標 写し取った身の回りのものの模様を基に、表したいことを見つけて、自分なりに模様を生かした作品を作り出す。

時間	主な学習活動 予想される児童の姿	指導上の留意点		評価規準 (方法)
		場の設定・ 材料や用具	問いかけ・支援	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでに取り組んだ作品を発表したり伝え合ったりする。</li> <li>「家の中でこんなもようを見つけたよ。」</li> <li>「友達はどんなものからこのもようを作ったのかな」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの活動や作品を目に入りやすくするため、座席を班の形にして座らせる。</li> <li>一斉に鑑賞ができるように、書画カメラで作品を拡大して見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「どんな模様をうつしてみつけたかな。」</li> <li>「どんな場所やものが写し取って面白かったか、教えてほしいな。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>イ(発表、つぶやき、観察)</li> <li>ウ(発表、つぶやき、観察)</li> </ul>
展開 25分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時のめあてを確認する。</li> </ul> <p>うつしとったもようから、自分なりにあらわしたいことを見つけて、作品をつくりだそう。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教室の中で、フロタージュの技法に取り組むことを知る。</li> <li>技法を使う際の注意事項を聞く。</li> <li>教室の中や、自分の持ち物、先生が用意した材料から、模様を写し取る。「教室の壁がデコボコしている！写してみたいな。」</li> <li>「網をいろんな色で写してみよう。」</li> <li>写し取った形や色から、自分なりに表したいことを考える。「カゴの模様が電車の窓みたいだ。電車の絵を描いてみよう。」</li> <li>「この模様と何かを組み合わせ、作品を作ってみよう。」</li> <li>自分や友達の作った模様や作品を見て、模様の面白い見え方に気付いたり、参考にしたりする。「〇〇さんの模様の形が生き物のように見えるなあ。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料を手に取り、写し取る様子が互いに見合いやすいように材料を配置する。</li> <li>筆記具を持ち歩く際に、落としたり人に当たったりしないように注意させると共に、児童が活動するスペースを確保する。</li> <li>児童の希望や活動の中での必要に応じて、新たな場所や素材を使えるようにしておく。</li> <li>カメラで児童の活動の姿を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の持ち物や教室の中で、写し取ったらどうなるか、写した模様をどんな風に作品にしようか、考えながら活動しましょう。」</li> <li>「活動の中で、友達のよさも見つけてみましょう。」</li> <li>「お互いに気を付け合い、材料や用具は大切に扱きましょう。」</li> <li>形や色の変化についての言葉があれば大きく取り上げ、全体に伝え共有する。「こんな模様に気付いた人がいるよ。ここからどんな作品ができそうかな。」</li> <li>「模様が写し取れたら、どんな作品ができそうか考えてみましょう。」</li> <li>「模様を組み合わせ、新しい形が出来上がってきたね。」</li> <li>活動が進まない児童には、友達の作品を例示して見せたり、色や写し取る範囲を変えて取り組ませたりして、児童の感じ方が変化するような支援をする。「この模様と似ているものはあるかな。色を変えて写してみたらどうだろう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア(作品、観察)</li> <li>イ(作品、つぶやき、観察)</li> <li>ウ(つぶやき、観察)</li> </ul>

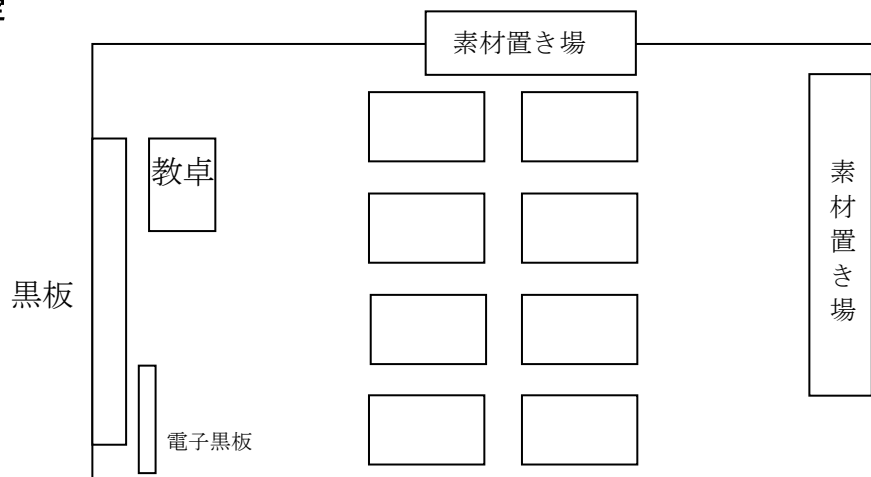
	「〇〇さんは、模様の写す向きを変えて、絵のように表しているな。私もやってみよう。」		<ul style="list-style-type: none"> <li>特に工夫していたり、新しい表し方を思いついたりしている児童がいたら、その場で全体に伝え共有する。</li> <li>「模様を重ねて写し、組み合わせる工夫をしているね。新しい模様みたいだね。」</li> <li>「色をそろえて写すことで、模様のリズムが感じられるね。」</li> </ul>	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞会をする。感想を伝えたり、聞いたりし合う。</li> <li>「友達が写した模様を見ていいなと思ったので、自分の作品にも写して組み合わせ、お城の作品を作りました。」</li> <li>「虹色でフロッタージュを試したら、宝石のような作品になりました。」</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞会を始める。</li> <li>「互いの活動や作った作品を見合いながら、どんな工夫や発見があったのか伝え合しましょう。」</li> <li>書画カメラに映し、全体に共有する。</li> <li>「模様の面白さに気付いて、作品に仕上げられましたね。友達によさに気付いた人もいて、お互いの表し方を学び合えましたね。」</li> </ul>	イ(つぶやき、観察) ウ(つぶやき、観察)
片付け 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品に名前を書き、先生に提出する。</li> <li>用具をしまい、ごみを捨てる。</li> </ul>			

### (3) 材料・用具

子供：筆箱、色鉛筆（クーピー）、事前に取りくんだ作品

教師：上質紙（B5・B4サイズ）、写す素材（カゴ、網、プラスチック皿、牛乳瓶の蓋など、壊れにくく凹凸のある雑貨）、予備の描画材（鉛筆、色鉛筆、クーピー）

### (4) 場の設定



### (5) 板書計画

